

令和4年度 第6回国立大学法人静岡大学長選考・監察会議議事録

日 時 令和5年3月14日（火）～20日（月）メール開催

出席者 栗村、鈴木、鳥居、望月、笹原、喜多、田中、鳥山の各委員

I 審議事項

1 学長1年目の業績確認について

議長から、資料1に基づき、学長1年目の業績確認結果の通知（案）について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

II その他

1 学長選考・監察会議の在り方について

議長から、資料2「次期静岡大学長候補者の選考手続きについて」（議長試案）の修正案について説明があり、意見聴取を行った。

（委員から出された意見の概要）

その他について3点ほど疑問がある。意見をとりあげていただくかは、議長に一任する。

・教職員の最大の興味は「意向投票をやるのかやらないのか」だと思われるが、意向投票の扱いが検討内容に含まれるのか、見えてこない文章となっている。文書を発出するのならば、もう少し明快にできないものか。

・「令和6年度に予定される～より明確となるよう見直しを行うこと」が含まれる文章について、見直しの目的語がなく、「見直しを行う」対象がなんであるか伝わらない。全体として漠然としており、「学長選考・監察会議に学長選考を委ねたい」と思えるかどうか。

・（会議組織そのものに関することとして）学長選考・監察会議の委員の選考がこのままでいいのかという疑問を持っている。学長が任命する経営協議会及び教育研究評議会の委員から本会議の委員を選出する規定の中で、私たちが信頼を得て、学長選考をしていくためには何をすべきかということについて、本来ならばもっと時間を取って議論が必要である。

・現在のタイミングで、当会議が次期学長の選考に取り組む姿勢を表明することは、重要な意味を持つこととなると共に、当会議に対する教職員の信頼を得る機会となるため、その内容については十分に検討する必要がある。

・前回の学長選考の背景やプロセスの振り返りが必要である。前回の選考を踏まえて、どのような点に配慮しながら、選考に係る審議を進めていくかを検討し、その結果を示すことが大切である。

以上